




令和6年度 施策評価シート

施策の大綱	1. 快適さを支える生活基盤の向上	評価担当者
基本施策	(7) 消防力・地域安全の充実	消防部長 豊田 賢治
目指す姿	市民が、生命・身体・財産を火災等から守られ、安心して暮らしています	
関連する分野別計画	第3次亀山市消防力充実強化プラン	

■SDGs

基本施策に関連するSDGsのゴール	  
SDGs推進の考察	<p>災害対応力強化のため、消防指令センター整備工事等を着実に進め、また、研修派遣を通じた人材育成に取り組むとともに、防火水槽設置やドローンの導入など消防用施設等を整備する一方、三重大学医学部附属病院への救急救命士派遣により、三次救急医療機関と連携関係構築を図った。また、新たに地域の防犯カメラ設置補助を開始し更なる体感治安の向上を図ったほか、関連団体への財政支援や他の公共機関等との連携によるパートナーシップ構築に努めた。今後も関連機関と連携を深め、安心して暮らせるまちづくりを進める必要がある。</p>

■関連する主な事業

(単位:千円)

施策の方向	事業名	上段: 予算額		実績・成果等
		下段: 決算額		
①	津・鈴鹿・亀山3市消防指令業務共同運用事業	3,693	3,674	3市と受注者において、詳細な検討を行うとともに、昨年度に設置した分科会では、多岐にわたる専門性の高い事務について調整を進めることができた。
①	消防庁舎及び関分署自家用発電設備改修事業	3,465	3,465	受注業者と改修工事に係る詳細な協議を行ったうえで、基本設計及び実施設計を完了することができた。
④	地域防犯カメラ設置支援事業	2,000	698	地域防犯カメラ設置事業補助金交付要綱を策定し、補助金を交付し、地域の防犯カメラの設置を支援したことで、地域の防犯環境や防犯意識の向上につながった。
①	一般管理費(常備消防費)	43,681	43,403	救急救命士の継続的な養成をはじめ、三重県消防学校各課程に職員を派遣し、資質向上に努めた。
①	活動費	48,138	47,035	団員が使用するヘルメットを更新するなど、個人装備の充実を図ったほか、災害出動をはじめ、市民への救急法指導、防火広報の実施などの活動に対して、報酬等を支給した。
①	防火水槽整備事業	11,906	11,905	建築物の密集状況及び地域間のバランス等を勘案した上で、防火水槽1基を新設したことで、消防水利の充足率が向上した。
①	防災施設整備補助金	1,436	1,435	21自治会に対して、補助金を交付することで、自治会の初期消火対応力の向上につながった。
①	車両整備費(消防団車両)	9,625	9,625	消防団第3分団三寺車庫の消防団車両1台を更新したことにより、災害出動時の迅速、的確性が増し、より充実した活動が行える体制が構築できた。
①	車両整備費	35,041	34,776	警防課の救急自動車1台を更新したことにより、救急出動時の迅速、的確性が増し、より充実した活動が行える体制が構築できた。
④	交通安全対策事業	385	380	亀山地区交通安全協会へ30万円及び交通安全対策協議会へ8万円の財政支援を行った。全国交通安全運動を重点的に、警察及び関係機関等と連携・協力し、交通事故防止に努めた。
④	防犯対策事業	23,535	22,896	防犯カメラの維持管理を行った。また、防犯灯については、防犯灯補助交換(212件)3,805,000円、新設41件798,800円、管理費補助金194件11,998,173円の補助を行った。
④	施設整備費(交通安全施設費)	14,190	13,472	区画線等の整備により交通環境の改善を行い、交通事故防止と交通の円滑化が図れた。各自治会からの要望の他に、通学路交通安全プログラムにより市内の小・中学校の通学路を対象に教育委員会と公安委員会(亀山警察署)等と連携して対策必要箇所について対応できた。
④	犯罪被害者等支援事業	1,175	154	「令和5年度版犯罪被害者等支援施策集」を令和7年度版に改訂するため、関係部署へ依頼した。

太字: 主要事業

■成果指標

指標	単位	現状値		実績値				目標値
				R4	R5	R6	R7	
1	救急救命士等の有資格者の配置率	%	91.8	R3	95.9	100	100	100
2	防火対象物への立入検査件数	件	160	R3	200	248	335	260
3	交通事故死傷者数	人	65	R2	101	117	83	50人以下
4								
5								
6								
7								
8								

■市民アンケート調査

項目		現状値 [R2]	1次 [R5]	2次 [R6]	市民アンケートの考察
1	緊急時の消防・救急体制が整っている	重要度 1.59	1.63	1.71	市民生活に直結する分野であり、前回との比較で全項目の重要度が上昇した。災害等や犯罪、交通事故に係る情報は報道等により広く拡散され、その情報に接する機会も多く重要度は高まっている。交通・防犯については、日々、その課題は変化しており、その変化に遅れないよう、警察署や関係団体等の連携を深め、様々な機会を通じて満足度向上につなげるよう努める。
		満足度 0.36	0.49	0.47	
2	犯罪を防ぐ対策が整っている	重要度 1.54	1.55	1.62	
		満足度 ▲0.25	▲0.18	▲0.35	
3	交通安全の対策が整っている	重要度 1.48	1.51	1.54	
		満足度 ▲0.21	▲0.06	▲0.10	
4		重要度			
		満足度			

■施策推進 [施策の方向]

施策の方向	施策推進に関する考察
① 消防体制の充実強化	計画的な人材育成、消防団の装備等の更新を進めたほか、指令業務共同運用に係る整備工事に着手した。今後も指令業務共同運用事業を着実に推進する。
② 防火対策の強化	事業所等の防火査察を強化し、防火管理体制の不備や消防用設備の未設置等の違反是正を推進した。今後は定期的な立入検査ができるよう検査体制の構築に取り組む。
③ 救命率の向上	三重大学医学部附属病院ハイブリッドワークステーション等へ派遣し、救急隊員の資質向上を図ったほか、救急講習を通じて応急手当の普及啓発に努めた。
④ 防犯・交通安全対策の推進	警察や関係機関と連携・協力し、防犯・交通安全活動を行った。また、防犯カメラを設置する自治会に対し補助金を交付することで、地域の防犯環境の充実を図った。
⑤	
⑥	
⑦	

総合評価

<p>消防体制の充実強化については、消防指令業務共同運用開始に向けた整備工事に着手するとともに、各分科会において専門性の高い事務の調整が進んだ。また、亀山消防庁舎及び関分署の老朽化した自家発電設備改修に向けた設計業務を完了することができた。さらに各種研修派遣によって継続的な人材育成を行うとともに、防火水槽1基の新設や救急車の更新、ドローン導入など消防用設備等の充実強化を図ることができた。地域防災の要である消防団については、ヘルメットを2か年計画で更新中で、個人装備の充実を進めているところであり、また、老朽化した車両1台を更新し、災害対応力の強化を図った。防火対策の強化については、防火対象物に対する計画的な立入検査を実施し、成果指標に掲げる目標値を上回る結果となり、火災等の未然防止につなげることができた。また、特定防火対象物のうち重大違反に該当する事案については、法令に基づいた是正指導を行い、改修につなげることができた。今後は、長期間にわたって立入検査未実施の防火対象物を減少させるとともに、改修に至っていない防火対象物については、適切な違反是正につなげる必要がある。救命率の向上については、新たに三重大学医学部附属病院で実施されているハイブリッドワークステーションに救急救命士1名を派遣し、病院前救護を担うスペシャリストの育成や、三次医療機関との連携関係構築に努めたほか、救急講習を開催し、応急手当の普及啓発を行った。今後は、救急隊員のレベルアップと三次救急医療機関との更なる連携強化のため、救急救命士の継続的派遣について派遣期間や派遣時期を検討する必要がある。防犯・交通安全対策の推進では、警察署、交通安全協会、防犯協会や鈴鹿亀山消費生活センター等の関係機関と情報共有及び連携して、交通事故の減少、また特殊詐欺やSNS型ロマンス詐欺等、新たな犯罪等の周知啓発を行ったが成果指標目標値の達成には至らなかった。なお、さらなる地域の体感治安向上のため「地域防犯カメラの設置支援事業」を開始し、5自治会8台の防犯カメラの設置に補助金を交付した。</p>	<p style="font-size: 2em; font-weight: bold;">B</p> <p>まずまず進んだ</p>
---	--

今後の展開方針

<p>消防体制の充実強化は、消防指令業務共同運用開始に向け3市で調整し着実に事業を進めるほか、効果的な組織の在り方を検討し、自家発電設備改修工事では整備工事を進める。人材育成や適切な消防施設等の管理では、財政負担軽減を考慮し計画的に取り組む。防火対策の強化は、成果指標目標値を達成したが、長期にわたり立入検査未実施の防火対象物や違反是正に至っていない事例もあり、計画的立入検査サイクルの確立と違反是正の徹底に努める。救命率の向上は、三重大学医学部附属病院へ救急救命士を継続的に派遣し、救急活動の質向上につなげるほか、さらに連携関係強化を進める。防犯対策は、鈴鹿亀山消費生活センターや防犯関係団体と連携を深め、新たな種類の犯罪情報共有や周知啓発に取り組む。また、体感治安向上に向けた対応は、防犯灯LED化促進や地域防犯カメラ設置支援を行う。交通安全対策は、警察署を中心に市交通安全対策協議会や地域活動団体、協力企業と更なる情報共有や啓発活動の活性化を図る。</p>
